

## -83- CEAによる悪性腫瘍の診断

都立大久保 放

○前川 全, 木下文雄

都立駒込 放

上野正己, 山田耕三

慶大 放

久保敦司, 近藤 誠

最近開発されたサンドイッチ法によるCEA-RIA Kitを用い、主として悪性腫瘍に対するCEA値の意義を評価し、また悪性腫瘍の治療(手術, 放射線, 化学薬剤)前後のCEA値の変動を追及した。

また一部症例は他のCEA測定法による値と比較した。

対象: 悪性腫瘍は子宮癌25例, 胃癌25例, 乳癌20例, 肺癌20例, 直腸肛門癌10例, 食道癌10例, 頭頸部悪性腫瘍10例, 泌尿器系癌8例, 肝癌5例, 甲状腺癌2例, 膀胱癌2例, その他の悪性腫瘍5例計142例, 良性腫瘍30例, 慢性肝炎, 肝硬変などの肝疾患50例, その他30例, 合計257例を対象とした。

方法: 上記諸種悪性腫瘍, 良性腫瘍, 諸種肝疾患, 正常者などの血清に就て, サンドイッチ法によるCEA-RIA KitによりCEA値を測定し, また悪性腫瘍の症例の一部に就て治療前後に採血し, CEA値の変動を測定した。

成績: 1) 正常者, 良性腫瘍疾患のCEA値は大部分2.5 ng/ml以下であった。

2) 直腸癌, 胃癌などの消化管の癌, 肺癌, 肝癌などではCEA値は高値を示す率が高かった。

3) その他の癌では正常値より高値を示す割合はかなり低かった。

4) 肝, 肺への転移癌などの進展症例では高値を示すことが多かった。

5) 肝硬変など諸種肝疾患はCEA値は時に高値を示した。

6) 手術, 放射線, 化学薬剤などによる悪性腫瘍の治療前後のCEA値の変動に就ては現在症例を重ね検討中である。

結語: 悪性腫瘍の診断に関し, CEA測定の評価を行ったが, CEA値は高値を示す場合は診断的価値が高い。併し消化器系, 呼吸器系の癌を除きその陽性率は低く, それらの癌の診断的意義は低い。また悪性腫瘍の治療前後の測定値はかなり正しくその治療効果を反映すると思われるが, 尚症例を重ね検討中である。

## -84- Carcinoembryonic Antigen (CEA)の

Radioimmunoassayの臨床診断学的意義

福島医大 2内

村井 隆夫, 正木 盛夫, 船川 礼司

福島医大 R I 研

斎藤 勝, 平 秀晴

Carcinoembryonic Antigen (以下CEAと略す)はGold等により大腸癌組織の過塩素酸抽出液から見出された抗原で, 当初は大腸癌及び胎児腸組織に特異的と考えられていたが, 現在では癌胎児性蛋白の一つとして, 悪性腫瘍に随伴してあらわれる腫瘍関連抗原としてとらえられ, 悪性腫瘍診断における血中CEAの測定の有用性は広く認められるようになってきている。我々も患者血中のCEA値をRIA法により測定し, その臨床診断学的意義について検討を加えたので報告する。

(対象並に方法) 対象は消化器疾患を主体とする診断の確定した各種疾患患者251名で, EDTA-K入り試験管にて採血して得られた血漿を分析試料として用いた。分析方法はHansen等のZ-gel法に基づくCEA-Roche kitの方法に従ったが, 一部はBとFの分離にSephacryl 4BにCouplingさせた抗ヤギγ-g1抗体を使用する固相法で行った。

(成績) 血漿中CEAの正常値の上限をHansen等の報告通りの2.5 ng/mlとし, それ以上をCEA陽性とする。CEA陽性例は悪性腫瘍127例中87例69%, 良性疾患124例中56例45%, 消化器疾患に限れば悪性腫瘍109例で70%, 良性疾患78例で51%であり, 良性疾患での偽陽性率が高かった。又, 個々の疾患別では, 胃癌79例で63%(進行胃癌61例で75%, 早期胃癌18例で22%), 胃潰瘍21例で33%, 大腸癌18例で89%, 大腸炎4例で50%, 食道癌4例で75%, 水阻道癌5例で100%, 肝癌3例で67%, 良性肝疾患41例で61%で, 癌のスクリーニングとしては進行胃癌, 大腸, 膵胆道, 食道, 肝の消化器癌では良好な成績であったが, 早期胃癌ではCEA陽性率は低く, 癌の早期診断という点では診断価値は低かった。更に, 良性の肝疾患でも高率であることも問題であった。次いで, 進行胃癌をBorrmann分類により型別に分け, 転移巣による影響を除くため転移(+)例を除くと, II型6例中全例, III型11例中7例, IV型4例中1例にCEAの上昇が認められ, 隆起性の胃癌でよりCEA値が高い傾向を示した。早期診断の困難なIV型ではCEAによる診断もむずかかった。同様に, 早期胃癌を内視鏡学会分類により分けると, 症例が18例と少ないためか型別の差ははっきりしなかったが, 侵襲度別ではmの症例11例では18%, Smの7例では29%がCEA陽性で, 癌浸潤の深いものほど陽性率が高い傾向が認められた。更にCEA値が非常に高い例では了後が悪い場合が多かった。